



洋上アルプス

No.311

2021年2月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

ようじょう

榕城 小学校森林教室 (1月9日)

ヤクタネゴヨウ保全の会から職員派遣依頼を受け、西之表市立榕城小学校6年生(83名)を対象に森林教室を行いました。今年はコロナ禍により十分なソーシャルディスタンスを取るため、榕城小学校体育館での開催となりました。当保全センターからは、植物の形の違いや、独特なおおがする葉を紹介、種が落ちる様子を模型キットで実演し、子どもたち



マツクイムシに興味津々

に配って種が飛ぶ様子を体験してもらいました。

ヤクタネゴヨウ保全の会は、絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウの保全活動、松くい虫対策の取り組み等を説明しました。その中で、今年度松くい虫の被害を受けたクロマツの中に入っているマツノマダラカミキリの幼虫に子どもたちは大変驚いていました。



植物を紹介する様子

森林教室終了後、校長先生からは「日頃は気づかなかった植物の葉や種の違い、希少な種子島の植物、ヤクタネゴヨウを守る取り組みなど大変貴重な学習ができた」とお礼の言葉をいただきました。

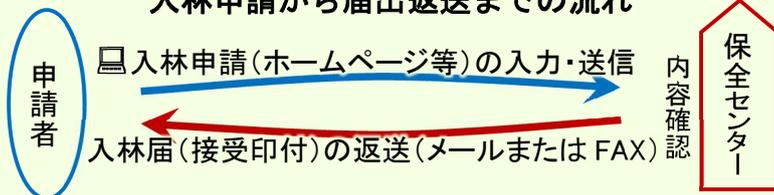


熱心に説明を聞く児童

インターネットでの入林申請のお願い

国有林内で、登山などのレクリエーション以外で、調査研究・取材・ドローンの飛行を目的として国有林へ入林される際は、入林申請をお願いしているところです。

入林申請から届出返送までの流れ



申請は、メールアドレスをお持ちの方であれば、当保全センターのホームページから可能です。なお、インターネットからの手続きであれば、郵送や当保全センターへの来所の必要がなく、従来よりも迅速・簡単に手続きが行えます(保護林調査申請と高山植物採取申請を除く)。また、入林日や場所等の変更も当保全センターで対応することが可能です。

初めて申請される方やご不明なところがございましたら、当保全センターのホームページをご覧いただくか担当係までご連絡ください。(本ページ「洋上アルプス」タイトル下にQRコードを記載)
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

冬山の登山に注意を！

令和2年12月に永田岳に登山をしていた、60代の男性が頂上近くで滑落し、亡くなる事故が発生しました。また1月には20代の大学院生が宮之浦岳に登山中、雪で動けなくなり新高塚小屋でへりに救出される事案が発生しています。

南国のイメージがある屋久島ですが、標高が高いところでは1m以上の積雪があります。また、積雪の中では歩道がわかりづらく迷いやすくなります。夏山に比べ滑落や転落の危険性が高く、木道などでは凍結する場合があります。冬山登山をする時は、経験豊かな人との同行や、十分な装備をお願いします。

島内において、登山される皆様には以下の点を守り安全で楽しい登山をお願いします。

1. 動植物等の生態系を大切に

ほとんどが国立公園であり、植物の採取は禁止されています。また、野生の動物に危害を加えたり、餌を与えたりしないようお願いします。

2. 宿泊は指定された山小屋で、たき火はやめて！

指定された場所以外では勝手にテントは張れません。緊急避難時のキャンプを除いて、山小屋を利用することになっています。また、山中でのたき火は、火事の原因となりますので止めてください。

3. ゴミは持ち帰る！

ゴミは捨てたり、焼いたりせず、指定された場所まで持ち帰りましょう。

4. 用便は決まった場所で

トイレは決まった場所をお願いします。または携帯トイレの使用をお勧めします。

5. 決められた登山道を歩きましょう。

主要な登山道のほとんどが、森林生態系保護地域（保護林）や国立公園の特別地域である世界自然遺産地域となっており、自然環境の維持・保全に努めている地域です。登山道から外れ、植物を踏み荒らさないようお願いします。また、登山道を外れると遭難の可能性が高まるため非常に危険です。

6. 日帰り登山でも十分な装備を！

屋久島の山岳部は険しく、天候が急変しやすいので、日帰りの登山でも万一のことを考えて十分な準備（雨具、非常食、救急薬品、防寒対策衣類など）が必要です。また、登山される場合は必ず登山届を提出するようお願いします。



太忠岳登山道 稜線付近(2021年1月18日)



積雪の白谷雲水峡(2021年1月12日)



積雪の歩道(階段)
(2021年1月12日、白谷雲水峡)

古に人が運んだ植物（第2回）

—— 人が運んだ植物・運ばなかった植物 ——

寺田 仁志（鹿児島大学 非常勤講師）

種子島の郷土史を書くことになって屋久島の植物で気になっていることがあります。

南種子の砂坂から屋久島は18kmの種子島海峡を隔てていますが、山々がそびえたち間近に見えます。海深も浅く氷河期は九州から屋久島まで陸続きだったということがうなずけます。

このため屋久島の高標高に生える植物を除き低地部の植物は今もほとんど共通で、中には種子島と屋久島だけにしか分布しない植物もあります。ヤクシマサルスベリとかカンツワブキ(写真1) などです。

ところが、県本土、種子島にあって屋久島にない植物があります。オミナエシ、ノヒメユリ、ユウスゲ、ワレモコウ、オニユリ、シャガ(写真2) などです。これらはかつては里地にふつうにある美しい花を咲かせる植物で、オミナエシ、ノヒメユリ、ユウスゲ、ワレモコウは刈取りや野焼きによって維持されている二次草原に普通にあった植物です。近年は二次草原が少なくなり多くの地域で絶滅の恐れがある植物に指定されています。

オニユリ、シャガは種子を作らない3倍体植物で人が愛でるために運んできた植物です。

これらの植物は種子島と陸続きの時から分布していたら屋久島にも残っているはずですが、戦国時代を過ぎ、平坦地が多い種子島では、武家の支配の下農業が行われ、馬を育て・塩を炊くための牧が至るところにつくられ、長期間二次草原が維持されていました。

これらの植物の多くはこの牧跡周辺に分布しています。農耕、牧畜とともに人が運んできたものと思われます。屋久島は種子島のように牧は発達せず、武家文化も浸透しなかったため、屋久島には定着しなかったと考えられます。

また、種子島にはある程度あって屋久島に記録程度にしかない植物にトキワススキがあります。トキワススキは東南アジア原産の草丈の長いススキで、屋根に葺く茅の材料に利用されてきました。屋久島やトカラ列島にはほとんどありません。屋久島は長い間屋根を葺く材料には杉の樹皮や刳れ材が使われたため、トカラではリュウキュウチクが身近であったためわざわざ栽培する必要がなかったのでしょう。

地域の歴史と文化から植物を考えると思わぬ発見があります。(つづく)



写真1. 上:ヤクシマサルスベリ
下:カンツワブキ



写真2. 上:オミナエシ 中:ユウスゲ
下:シャガ



高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討（平成30年度）②

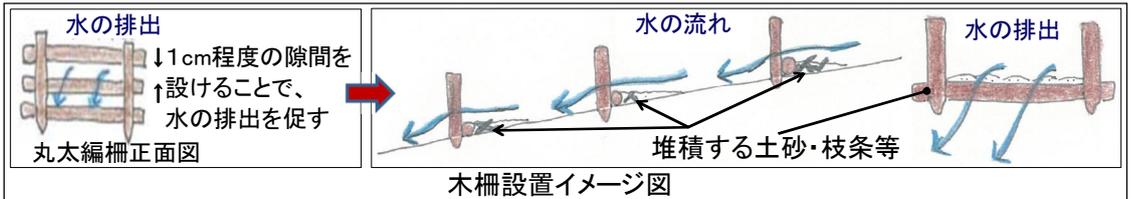
●花之江河における試行的保全対策

花之江河では、ヤクシカによる流路側壁等の踏み抜き、歩道からの土砂流入による乾燥化、木製歩道による水の堰き止めが原因とみられるポンプアップによる新たな湧水や流路の発生などが進行しており、それにともない急激な侵食が進み河床低下や流路の拡幅などが生じている箇所が確認される。

このような箇所については、早急に状況の悪化をくい止める必要があることから、モニタリング調査結果に基づく保全対策の検討と並行して、人的影響が最小限になるよう配慮しつつ、丸太や植生保護柵を活用した試行的保全対策を実施することとする。

A. 丸太による土留め効果を期待する工法 当初検討(案)は、3段(若しくは2段)の木柵により土留めの効果を期待

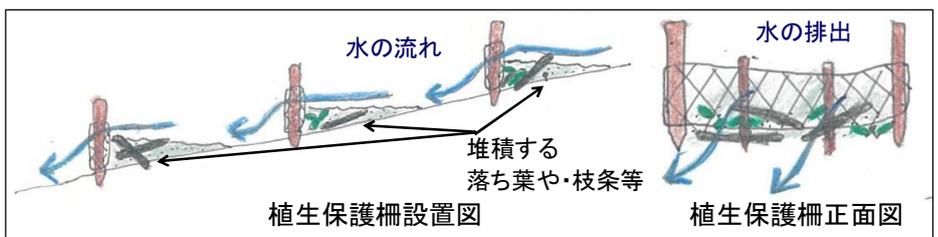
することを検討したが、木柵による側壁への影響(流路の拡幅)、水たたきによる流路の掘削等の影



響が大きいことを考慮し、流路に丸太(8cm~10cm程度)を1本、1m~2m程度の間隔で3箇所ほど設置(段々畑をイメージ)し、流路への急激な影響を避け、緩やかな土砂の堆積、ダムアップの効果を期待する。

B. 植生保護柵を活用し枝条等を堆積させる工法 流路の幅、設置高は流路の側壁程度の高さに植生保護柵を

設置し、自然に流れる落葉、枝条等を徐々に堆積させて流路の急激な流れを抑え落葉・デトリタス等流出防止を図る。設置は、両端に2本の杭等により保護柵を設置し、中間に2、3本の杭等を挿して堆積による荷重を支える。



自然休養林情報

ヤクスギランド⑤ やくすぎの森コース その1

ヤクスギランドのやくすぎの森コースは、標高約1000mから1080m、延長約3km、所要時間約150分のコースです。樹齢1000年以上の屋久杉をはじめ、江戸時代の伐採後に回復した美しい小杉の森をじっくり堪能することができます。ここでは、つつじ河原コースの分岐点から先を紹介していきます。

つつじ河原コースの分岐点を過ぎしばらく進むと、多数の植物の根が幹に絡み付き、まるでお年寄りの髭のように見える杉、「ひげ長老(ちょうろう)」が姿を現します。とてもユニークな名前は、平成12年に開催された世界自然遺産会議記念の公募により選ばれた、屋久島在住の当時小学1年生が付けてくれた名前です。

次に見られる杉は、推定樹齢2000年の「蛇紋(じゃもん)杉」。平成9年9月の台風で根こそぎ倒れ、根がむきだしになっています。倒木でも人気が高く、その荒々しい根っこは自然が生み出した芸術品です。

「蛇紋杉」から300m程進むと、推定樹齢1500年の「天柱(てんちゆう)杉」に到着します。その名にふさわしく、ヤクスギランド内の主な屋久杉の中で一番背が高く、樹高33.8mを誇ります。

